制度浸透 高まる加入率

新潟地震を機に誕生した地震保険

1964年6月16日、マグニチュード7・5の新潟地震が発生。地震による死者は26人、負傷者447人に達し、各所で地盤の液状化による被害も見られ、住宅や道路、鉄道など被害は広範に及んだ。地震から3日後の6月19日、衆議院の大蔵委員会で、地震保険等の制度の確立を進めるべきとする決議が行われた。日本の地震保険制度はここから始まったとされる。

減災社会へ向けて

日本は世界有数の地震国であり、関東大震災をはじめ多くの地震災害の歴史を持っている。しかし地震被害に対する保険制度は整備されておらず、被災者はゼロからの生活再建を余儀なくされてきた。

日本でも明治期から火災保険が販売されていたが、地震で発生した損失は免責となる（保障されない）ことから、地震災害の被災者への救済や支援措置の確立は社会的な課題となっていた。

損害保険は火災や事故の発生確率などを基に保険料が決められる。地震のように、発生頻度も被害の大きさも予測困難な災害を、保険の対象にすることは難しい。また地震による被害・損害は、歴史を持っている。しかし地震被害に対する保険制度は整備されておらず、被災者はゼロからの生活再建を余儀なくされてきた。

日本でも明治期から火災保険が販売されていたが、地震で発生した損失は免責となる（保障されない）ことから、地震災害の被災者への救済や支援措置の確立は社会的な課題となっていた。

損害保険は火災や事故の発生確率などを基に保険料が決められる。地震のように、発生頻度も被害の大きさも予測困難な災害を、保険の対象にすることは難しい。また地震による被害・損害は、歴史を持っている。しかし地震被害に対する保険制度は整備されておらず、被災者はゼロからの生活再建を余儀なくされてきた。

新潟地震を契機に、保険審議会では、さまざまな視点からの議論を進め、国が関与することで保険を引き受け、また、損保各社は不足も利潤も生じないように運営することが求められる（ノーロス、ノープロフィットの原則）など、官民一体となって運営する社会システムとして、世界的にも珍しい保険制度となっている。

損害保険会社が運営する地震保険以外に、地震時の住宅等の保障を行う制度（商品）として、JA共済の「建物更生共済（たてこう）」、全労済の「自然災害共済」などがある。

「建物更生共済」の歴史は古く、前身である「家屋更生共済」が始まったのは1953年のこと。1961年からは、火災だけでなく地震も自然災害共済の対象となり、組合員が家屋を新しくするのに必要な保障と、自然災害を担保。地震保険にあたる部分が初めから組み込まれていた。また掛け捨てではなく、満期時には共済金が支払われるのも特徴で、被災した際には最高600万円が給付される。目的やライフスタイルに応じて、いざというときの備えについて考えてみたいものだ。

官民が協力して運営

県内 全国平均上回る42・9%

新潟地震を契機に誕生した地震保険は、国が関与することで保険を引き受け、また、損保各社は不足も利潤も

巨大地震の際の支払いを担保するために国が再保険を引き受け、また、金が支払われるのも特徴で、

全労済の「自然災害共済」は、阪神淡路大震災を契機に誕生した新しい制度（商品）。火災共済加入者には地震時にも見舞金が支払われ、阪神淡路大震災時には185億円が支払われているが、地震や自然災害への保障を高めるために、新たに創設したものだ。

兵庫県には県が独自に運営する住宅共済制度が更生共済として存在する。JAの建物共済が加入率は42・9%に達しているのに対し全国の加入率は21・5%に、新潟県でも5・9%から47%へと上昇している。

新潟県は、JAの建物共済が加入率が相対的に多く、地震保険つき住宅を持つ住民を対象に、地震保険や全労済の共済を合わせた加入率は42・9%に達している。これは全国の35・5%を上回る水準だ。

この数字は、果たしてどう評価すべきだろうか。

地震保険の誕生以来40年以上を経過し、制度は着実に拡充・浸透している。当初は（全損のみ）だったが、平損（一部損）へと補償範囲を拡大、また引受限度額の引き上げや、建物の耐震性能に応じた割引制度の導入なども進められてきた。2007年からは、地震保険や共済等の保険料（共済掛金）が所得控除の対象になるなど、税制面から加入を促す政策も進められている。

家族や生活の安全・安心のために、保険や共済など選択肢は増えている。目的やライフスタイルに応じて、いざというときの備えについて考えてみたいものだ。

地震保険等の加入率は長らく伸び悩み傾向にあったが（阪神淡路大震災、中越大震災などの大規模地震の発生によって、加入率は高まる傾向にある）。

例えば地震保険の場合、1994年度末の世帯加入率（全国は9%）だったものが、2007年度末には21・5%に、新潟県でも5・9%から47%へと上昇している。

新潟県は、JAの建物共済が加入率が相対的に多く、地震保険つき住宅を持つ住民を対象に、地震保険や全労済の共済を合わせた加入率は42・9%に達している。これは全国の35・5%を上回る水準だ。

全世帯の約4割強という評価すべきだろうか。

地震保険の誕生以来40年以上を経過し、制度は着実に拡充・浸透している。当初は（全損のみ）だったが、平損（一部損）へと補償範囲を拡大、また引受限度額の引き上げや、建物の耐震性能に応じた割引制度の導入なども進められてきた。2007年からは、地震保険や共済等の保険料（共済掛金）が所得控除の対象になるなど、税制面から加入を促す政策も進められている。

家族や生活の安全・安

地震保険・共済制度等の比較

区分	地震保険（損害保険各社）	建物更生共済（JA共済）	自然災害共済（全労済）	（参考）兵庫県住宅再建共済制度
対象災害	地震・噴火・津波による災害（注1）	さまざまな自然災害（約款等に記載）	さまざまな自然災害（約款等に記載）	さまざまな自然災害（約款等に記載）
火災保険（共済）への加入	火災保険とセットで契約（単独契約は不可）→火災保険単独の契約者は地震保険の追加加入が可能	あらかじめ地震保障が組み込まれている	火災共済とセットで契約（単独契約は不可）→火災共済単独の契約者は自然災害共済の追加加入が可能	火災保険の加入不要
災害時の支払金額（給付額）	全損：契約額の100% 半損：契約額の50% 一部損：契約額の5%	全損：火災共済金額×0.5 部分損：火災共済金額×0.5×損害の割合	全壊：契約口数×2万円 半壊：契約口数×1万円 一部壊：契約口数×2000円（注3）	再建・購入：600万円 補修：50～200万円 何もしない：10万円（注2）
引受限度額・最高保障額	火災保険の30～50%で契約金額を設定（建物5000万円等の限度あり）	建物の再取得価額（新たに購入・建築する金額の50%）が限度額（地震保障）	1200万円	600万円
再保険	○（国が再保険を引き受ける）	○（海外の保険会社が引き受ける）	○（民間保険会社が引き受ける）	再保険なし
その他	・保険料は掛け捨て ・保険料の所得控除あり	・掛け捨てではなく満期時共済金を受け取る ・共済掛金の所得控除あり	・共済掛金は掛け捨て ・共済掛金の所得控除あり	・負担金（年額5000円）は掛け捨て ・兵庫県内の住宅所有者のみ

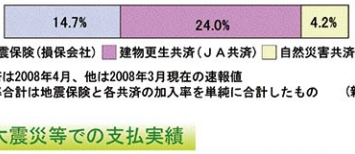
注1）他の自然災害は火災保険で対応しているが、商品によって異なる
注2）半壊以上が対象。県外で再建・購入の場合は半額の300万円となる
注3）他に「地震等災害見舞金」（全壊の場合の限度額200万円）等が支払われる

（各種資料等より作成。省略した個所もあるため、詳しくは各組織のHP等で確認を）

補償範囲拡大や税控除も後押し

中越沖地震でも多くの住宅が倒壊した＝2007年7月16日、柏崎市東本町3

地震保険等への加入状況



※全労済は2008年4月、他は2008年3月現在の速報値
加入率合計は地震保険と各共済の加入率を単純に合計したもの　（新潟県資料）

中越大震災等での支払実績

区分	阪神淡路大震災（1995年）	中越大震災（2004年）	中越沖地震（2007年）
地震保険（損害保険各社）	783億円	149億円	81億円
建物更生共済（JA共済）	1188億円	773億円	314億円
自然災害共済（全労済）	〈制度なし〉	43億円	35億円

※自然災害共済には火災共済の地震等災害見舞金を含む。JA共済は農業施設等も対象となっている。
（各種資料より作成）

保険や耐震性アップを

災害と住宅再建 〈4〉

支援策とともに 自らも備え必要

山古志地区で中越大震災からの住宅再建について話を聞いた。

◆住宅が全壊し集団移転地に再建した藤井寛之さん（楢木地区）

「新しいスタートを切るには家が必要。楢木は29世帯だったが、お子さんが小さい家庭では、移転を待ちきれずに新しい土地に家を建てた人も多い。移転地の旧池谷小学校跡地に住宅を再建したのは12世帯だった」

◆半壊判定を受けて補修・補強工事を行った片山京子さん（竹沢地区）

「屋根に大きな穴が開き、壊れ判定を受けた。迷った末に民宿を続けることを決め、すぐ大工さんに仮発注した。新しい集団移転パンフレットが届いたのが、被災した時期。まずは再建を決意していた。多くの人が、被災した仮設住宅に入った最初の冬に、住宅を再建して戻ると決意していた。共通する点は多かった。

◆同じく集団移転地に住宅を再建した松井治二さん（木籠地区）

「新築して2年ちょっとの家が水没した。住宅は個人のものだがムラを引き継いでいくためにも重要だ。共済金などを元に再建したが、100年たってもびくともしないように、頑丈な基礎にこだわった」

◆民宿を再建した星野藤隆さん（竹沢地区）

「傾いた家を補修・補強するのに1～800万円かかった。友人に誘われJA（共済）の『たてこう』（建物更生共済）に加入したのは地震の2年前のこと。共済金があったので持ち出しも少なかった。

今回取材したのは、地区も年代も、再建の状況も異なっているものの、いう点も共通している。

家が離れているので隣近所を気にしなくてもいい、米や野菜を買わなくてもいい暮らし、何かあるとご近所が助けてくれるなど、都市部とは違う生活は、土地やムラへの愛着とともに再建へのエネルギーとなっている。

住宅の再建資金を早いうちに確保できたことも大きい。山古志地区では、最初の冬に、JA共済「たてこう」の共済金で再建のめどがたった世帯が多かった。再建できるとわかったことで「戻る」という意識も高まったようだ。

突然襲ってくる地震などの自然災害、被災からの生活再建や復興は、住宅再建からスタートする。公的支援が手厚いことは望ましいが、住宅という個人の財産への支援には限界はある。保険や共済等への加入や耐震性の向上など、まずは将来に備えた自助努力が必要だろう。

一人ひとりの自助努力とそれを補完する公的支援制度。その両輪をバランスよく高めていくことが、災害に強い新潟の実現には欠かせない。

（おわり）

集団移転した楢木集落の現在

＜次号案内＞

次号第13号は7月6日（月）に発行します。復興に向かう中越沖地震被災地のルポや、7・13水害から5年たった被災地の今をレポートします。

中越イベント情報

長岡市

■観光物産フェア　とちお自慢市
【日時】6月14日（日）
【会場】道の駅R290とちお
【内容】栃尾自慢の逸品が大集合。楽しいイベントも。
【問い合わせ】栃尾観光協会 0258(51)1195

■山口町森光　チマキづくりとほたる観賞
【日時】6月27日(土)10:00～
【集合場所】森光担い手生産組合事務所前
【内容】「チマキ」を作り、夜は幻想的なホタルの光を楽しむ。
【問い合わせ】森光担い手生産組合 0258(41)9288(小島勝弘さん)

■寄贈絵画展
【日時】6月27日～7月26日 10:00～17:00
【会場】小国町山野田集落　芸術村会館
【内容】小国にゆかりのある人々から寄贈された絵画を展示。
【問い合わせ】芸術村会館0258(95)3135、小国支所地域振興課 0258(95)5911

川口町

■道の駅　あぐりの里「夏だ！あぐりだ！全員集合祭」
【日時】6月14日（日）10:00～15:00
【会場】道の駅えちご川口　交流物産館「あぐりの里」
【内容】名物「500人鍋」、今回は「500人カレー」。ご飯持参。地元農産加工品も販売。
【問い合わせ】道の駅えちご川口　交流物産館「あぐりの里」0258(89)4550（小宮山駅長）

■第24回田麦山ロードレース
【日時】6月14日(日)8:30～
【集合場所】田麦山公民館（旧田麦山小学校）
【内容】震災で壊れた15㌔コースが復活。3㌔・8㌔・15㌔の3コース。当日受け付け不可（オープン参加なし）
【問い合わせ】田麦山スポーツ振興会 森山正夫代表 0258(89)3418

■よってげ亭　ふれあい市
【日時】6月21日（日）10:00～14:00
【会場】東川口商店街（国道17号沿い、案内看板あり）
【内容】特産品、手打ちそば、手作り総菜、お好み焼きなど販売
【問い合わせ】本町通り復興活性化委員会 内藤克己代表 0258(89)2079

小千谷市

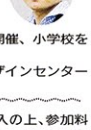
■「カルテット・スピリタス」コンサート
【日時】6月3日(水)18:30開場、19:00開演
【会場】小千谷闘牛場脇　まもり岩広場（雨天時は東山住民センター）
【内容】第一線で活躍する音楽家によるコンサート。サクソホン四重奏のクラシックやポップス演奏。1500円（100枚限定）
【問い合わせ】小千谷市民会館 0258(82)9111、東山住民センター 0258(59)2003

■金倉山トリムウォーキング大会
【日時】6月7日(日)9:30～10:00受け付け、10:30出発
【集合場所】東山レクレーションセンター跡地
【内容】大人1000円（当日1200円）、小中学生500円（当日550円）、未就学児無料。12㌔コース。当日受け付け可。参加ゼッケンを付けている人は、当日小千谷闘牛場で「牛の角突き」を無料で観戦できる。
【問い合わせ】東山住民センター 0258(59)2003

■おぢや牛の角突き
【日時】6月7日(日)13:00～雨天決行
【会場】小千谷闘牛場
【内容】勢子の勇敢な姿と妙技を観戦。一般席（屋根なし）1000円、特別席（屋根あり）2000円
【問い合わせ】小千谷市商工観光課0258(83)3512

☆クローズアップイベント☆

■国際留学生フォーラム in 柏崎
【日時】6月27日（土）13:00～17:30
【会場】柏崎エネルギーホール
【内容】第1部　交流から共有、そして協働へ スライドショーとパネルディスカッション
第2部　李宏広氏チャリティコンサート（入場無料）
中国蘇州出身、歌手・執筆家として活躍する李宏広さん＝写真＝が歌声を披露。李さんは中国四川省大地震後に被災地で激励コンサートを開催、小学校を再建・寄贈している。
【問い合わせ】中越防災安全推進機構　復興デザインセンター 0258(30)3460



■愛染明王祭典　愛染まつり
【日時】6月13日（土）
【会場】小千谷市川井　妙高寺
【内容】愛染明王御開帳15:00～21:30、演芸会16:00～、花火大会19:30、富くじ抽選会22:00～
【問い合わせ】妙高寺 0258(89)2529

■中越大震災復興5周年記念事業　清家みえ子グランドコンサートin小千谷
【日時】6月14日（日）15:00～17:00（14:30開場）
【会場】小千谷市民会館大ホール
【内容】下町の〝歌うたこ焼ドラマ〟、清家みえ子さんのコンサート。無料。
【問い合わせ】塩谷「芒種庵を創る会」高橋坦さん 0258(27)5493、関芳之さん 0258(59)2245

■震災復興5周年ホタルまつり
【日時】6月20日(土)19:00～
【会場】船岡町会館、船岡公園ホタルの宿
【内容】ホタルの講座、ホタル観察会、写真パネル展、出店等
【問い合わせ】船岡町ホタルを育てる会　大塚長吉会長 0258(82)7462

■小千谷青年会議所　大感謝祭
【日時】6月20日(土)13:00～
【会場】極楽寺門前、小千谷市民会館大ホール
【内容】小千谷青年会議所が創立50周年を迎えた感謝祭。極楽寺門前特設ステージでは、マジックショー、コンサート、ふるまい鍋、縁日、抽選会など(13:00～17:00)。小千谷市民会館大ホールでは、米良美一さん講演会と歌(17:00～18:30)。無料。
【問い合わせ】小千谷青年会議所（小千谷商工会議所内）0258(81)1300（吉沢さん）

■第12回高場山マラソン
【日時】6月28日(日)雨天決行
【会場】小千谷市川井小学校
【内容】コースは小学生3㌔、一般・高校生・中学生5㌔、一般、高校生12㌔。一般1000円、小中学生500円。所定の郵便振替用紙に必要事項を記入の上、参加料を添えて申し込む。ファクスも可。6月15日(月)締め切り
【問い合わせ】高場山マラソン事務局　小千谷市大字川井6151-1（SKパッケージ）、諏訪部茂さん 090(4063)7584。www6.plala.or.jp/takaba-run-club

南魚沼市

■休日農業講座「田んぼのイロハ」
【日時】6月13日(土)、14日(日)
【会場】南魚沼市栃窪集落
【内容】コシヒカリの本場・南魚沼市で育ちながらの米作りを学ぶ体験講座。6回シリーズの第3回「水管理と草取り」。大人1万円、中学生以下無料。宿泊は地元民宿1泊2食付き6000円。
【問い合わせ】NPO法人　ECOPLUS「TAPPO南魚沼やまとくらし学校」電話025(782)5103、ファクス025(782)5104。http://tappo.ecoplus.jp/

■やまざとの食と暮らし講座「第2回　山の上の畑講座」
【日時】6月20日（土）10:00～17:00
【会場】南魚沼市栃窪集落
【内容】大豆の苗植え、地元米粉料理「あんぽ」づくり。4回シリーズの2回目。5000円。申し込みは2週間前まで。
【問い合わせ】NPO法人　ECOPLUS「TAPPO南魚沼やまとくらし学校」電話025(782)5103、ファクス025(782)5104。http://tappo.ecoplus.jp/

十日町市

■笹山じょうもん市
【日時】6月7日（日）
【会場】笹山スポーツハウス周辺
【内容】国宝・火焔型土器の発掘場所である笹山遺跡の特設会場で縄文文化に触れる催し。
【問い合わせ】十日町市中条公民館　025(752)2748

「社団法人　中越防災安全推進機構　復興デザインセンター」のサイトに、Web版「新潟　防災ジャーナル」が公開されています。
このサイトは、中越地震・中越沖地震からの復興に取り組む皆さんの情報発信の場として、コミュニケーションの場として活用頂けるよう運営しています。
ホームページアドレスhttp://fukkou-design.jp